Waseda Vision 150

キャンパスがミュージアム　vol.2

《大隈庭園編》

開放時間：4月～12月の授業実施日の
月・火・木・金・土曜日　11:00～16:00
(ただし雨天の場合は閉園となることがある)

早稲田大学　文化推進部

文化推進部管理職者会編
大学史資料センター・會津八一記念博物館監修

目　次

1．文化資源マップ《大隈庭園編》

2．文化資源の解説

■大隈庭園の由来…… 1
■沓脱石からの景観（見立て・空間構成・美意識）と庭園の中心軸 …… 1
■大隈庭園の楽しみ方 …… 1
■かつての大隈庭園の様子…… 1

（1）銅像（人物顕彰）　Statures

①大隈講堂内大隈重信全身像　※大隈庭園付近 …… 2
②大隈綾子銅像…… 2
③田中穂積銅像…… 3

（2）記念碑　Monuments

④平和祈念碑…… 3
⑤稲友乃碑…… 4
⑥稲工乃碑…… 4
⑦稲友石（125 周年記念） …… 4
⑧「紺碧の空」記念碑　※大隈庭園付近…… 5
⑨「早稲田の栄光」歌碑　※大隈庭園付近…… 5

（3）石造　Stone Images

⑩十三重の層塔…… 6
⑪五重の層塔…… 6
⑫灯篭各種…… 6

（4）海外からの寄贈　Memorial Danations from Overseas

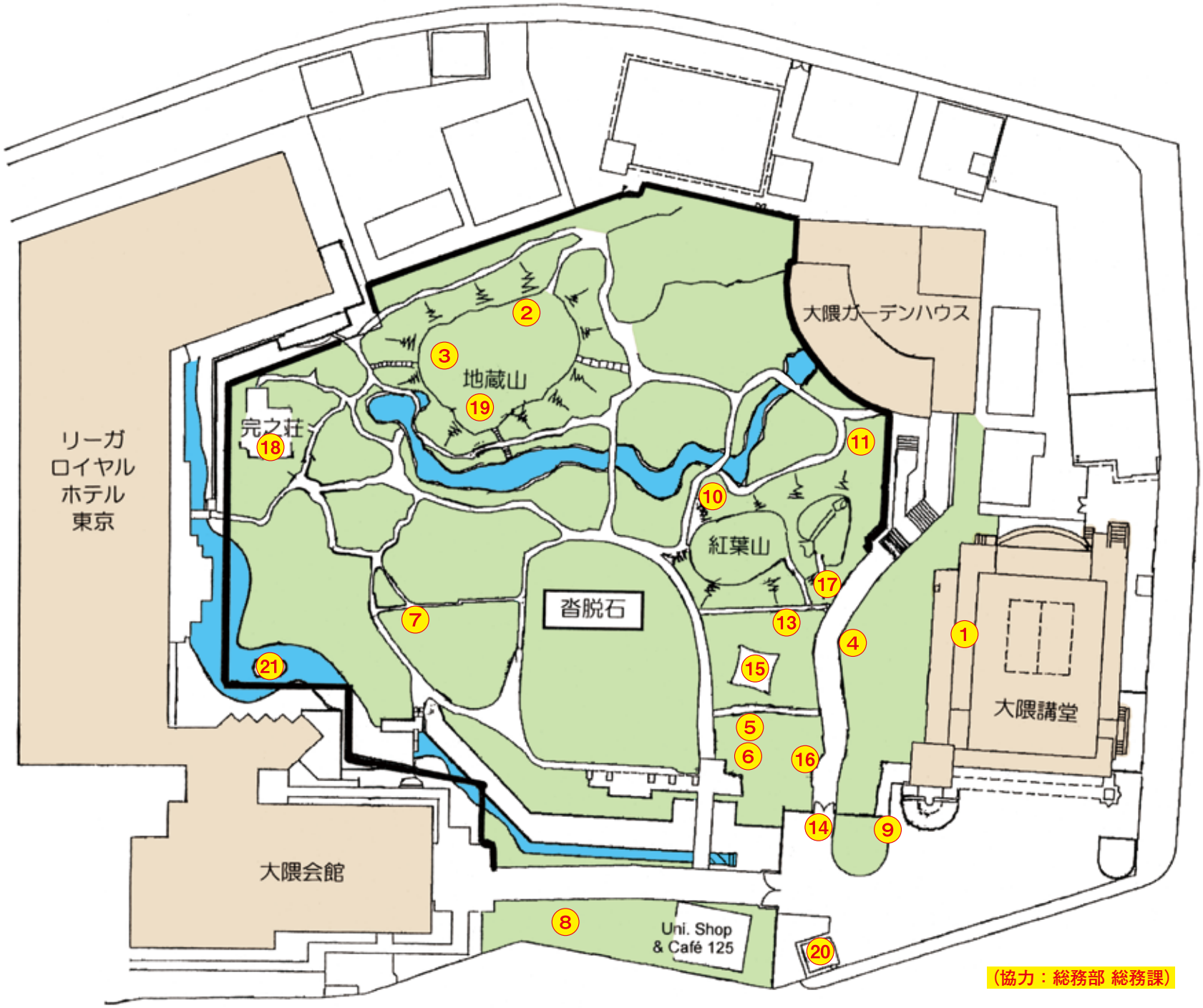
⑬孔子像…… 7
⑭中華民国獅子像…… 7
⑮韓鐘閣・エミレの鐘…… 8
⑯童子石…… 8
⑰文人石…… 8

（5）建築物・造作物　Houses and Landscape Gardening

⑱完之荘…… 9
⑲地蔵山…… 9
⑳旧大隈邸門衛所　※大隈庭園付近 ……10

（6）記念樹　Memorial Tree

㉑大隈重信手植えの楠……10


リーガ
ロイヤル
ホテル
東京
大隈ガーデンハウス
地蔵山
完之荘
紅葉山
沓脱石
大隈講堂
大隈会館
Uni. Shop
& Café 125
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
13
14
15
16
17
18
19
20
21

（協力：総務部 総務課）

■大隈庭園の由来

大隈庭園の由来は、井伊掃部頭・松平讃岐守の下屋敷にあった**和様四条家風**の名園を、早稲田大学創設者の大隈重信が自然律に従い**文人風**に改造したもので、当時は都下屈指の名園と言われました。没後、邸宅とともに大学に寄贈・公開され、**東京の新名所**となりました。1945（昭和 20）年 5 月の空襲で庭園は廃墟と化しましたが、多くの人々の努力により、ほぼ昔の景観どおりに復元され、今日に至っています。

■沓脱石からの景観（見立て・空間構成・美意識）と庭園の中心軸

大隈庭園には芝生の中に（旧大書院跡の）**巨大な沓脱石**があります。この沓脱石から庭園を眺めることにより、当時の家屋からみた庭全体の景観を再現することができ、庭園鑑賞に大切な**「見立て」**を理解すると共に、より深く家屋と庭園の**空間構成や美意識**を想像することができます。

沓脱石から地蔵山山上が大隈庭園の中心軸になります。

■大隈庭園の楽しみ方

庭園内の各所には銅像や記念碑があり、それぞれの由緒来歴を鑑賞することができます（次頁以降を参照）。一方で大隈庭園はもともと**「池泉回遊式庭園」**で**「近江八景」**を築庭・造庭のモチーフとしています。庭内を巡りながら散策することで、**日本庭園の美**に触れることもできます。

■かつての大隈庭園の様子　※旧大隈邸のあった 1923（大正 12）年頃

資料：『大隈會館之栞』（大学史資料センター所蔵）より

(1) 銅像（人物顕彰）　Statures

①大隈講堂内大隈重信候全身像　Statue of Shigenobu Okuma in Okuma Auditorium

1907（明治 40）年に早稲田大学創立 25 周年と大隈重信の古稀を記念して設置された初代の大隈重信像である。製作は小野惣次郎、鋳造は鈴木長吉である。

昭和初頭まで、この銅像がキャンパスの中央に設置されていた。

現在早稲田キャンパスに立つ角帽とガウン姿の銅像は**２代目**であり、1932（昭和 7）年に早稲田大学創立 50 周年と大隈重信没後 10 周忌に合わせて、教育者らしい姿で建立された（朝倉文夫の作）。早稲田大学の各キャンパスには、大隈重信の胸像が設置されている。

なお 1916（大正 5）年に芝公園に設置された衣冠束帯姿の銅像があったが、戦時中の金属供出により現存しない（朝倉文夫の作）。また 1938（昭和 13）年に大日本帝国憲法発布 50 年を記念して、大隈重信銅像が国会議事堂内に設置されている（朝倉文夫の作）。

また**初代**の塑像原型（レプリカ）が早稲田大学の大隈記念室に、初代を模した銅像が佐賀市大隈記念館に設置されている。

②大隈綾子銅像　Statue of Madam Okuma

大隈綾子（1850-1923 年）は、大隈重信の夫人である。旗本三枝七四郎の次女として生まれ、19 歳で大隈と結婚した。以来 50 余年、公私ともに大隈を支えた。

大隈の行くところには必ず綾子夫人が付き添い、仲睦まじい夫婦として当時評判であったという。

その控えめな見かけによらず、度量の大きい、かつ几帳面な人柄であったという。

たとえば佐賀の乱で刑死した江藤新平の息子新作を引き取り親身に世話して世に出したり、夫重信に対する爆弾事件で自殺した来島恒喜の霊を弔うなどしたという。大隈の死の翌年、あとを追うように 73 歳で亡くなった。

銅像は大隈銅像と同じ彫刻家朝倉文夫の作で、1927（昭和 2）年の創立 45 周年にあたり、嗣子大隈信常氏より寄贈・建立された。

③田中穂積銅像　Statue of Hozumi Tanaka

田中穂積（1876-1944 年）は、早稲田大学第４代総長。財政学者、法学博士。

長野県長野市に生まれ、東京専門学校（現、早稲田大学）政治科を卒業した。東京日日新聞記者、コロンビア大学留学を経て、早稲田大学講師となる。大学では財政学や経済学等を教える。

理事、常任理事を経て、第４代総長となる（在任期間は 1931-1944 年）。1939 年に貴族院議員に勅撰された。

銅像は大隈重信銅像と同じ彫刻家朝倉文夫作で、1957（昭和 32）年に早稲田大学創立 75 周年記念として、校友会により建立された。

(2) 記念碑　Monuments

④平和祈念碑　Peace Monument

日中戦争から太平洋戦争にかけて、戦争のために志半ばに亡くなった早稲田大学関係者（在学生、校友、教職員）は 4,500 名を超える。

1990（平成 2）年、戦後 45 年の創立記念日に、不戦の誓いと犠牲者の鎮魂のために立てられた。記念碑の台座の下には、戦没者の名簿が収められている。

その裏面には太平洋戦争当時に文学部の女子学生であった宇都宮（旧姓堂園）満枝さんの和歌が刻まれている。

「征く人のゆき果てし校庭に音絶えて　木の葉舞うなり黄にかがやきて」

なお大隈記念タワー 16 階の校友サロンには、宇都宮満枝さんの**自筆和歌**が額に入れられて展示されている。

※校友サロンへの入場には、早稲田カード、校友カード、または両カード所持者の同伴者が必要です。

⑤稲友乃碑　75th Anniversary Monument of Alumni Club “Touyu-kai”

早稲田稲友会創立75周年を記念して建立された。

1911（明治44）年に附属早稲田工手学校が開校され、稲友会はその教職員生徒の親睦組織であった。戦後の学制改革に伴い工手学校が廃校となり、早稲田工業学校、同工業高等学校、同産業技術専修学校の卒業生も受け入れたが、最終的に廃止となった。

⑥稲工乃碑　70th Anniversary Monument of Alumni Club “Touko-kai”

早稲田稲工会創立70周年を記念して建立された。早稲田稲工会は、早稲田大学附属早稲田高等工学校の教職員学生卒業生の親睦組織であった。

我が国における工業の発展に寄与し、高度の専門性を有する技能者の育成を目的に1928（昭和3）年開校し、9,219名の卒業生を送り出したが、戦後の学制改革により1951（昭和26）年に閉校となった。碑面の書は第14代総長の奥島孝康による。

⑦稲友石（校友会125周年記念）　125th Anniversary Stone from Alumni Club

稲友石は、早稲田大学校友会125周年を記念して、2010（平成22）年に校友会により建立された。

石には第15代総長白井克彦の筆により、「**ともに世界へ、ともに未来へ**」と刻まれている。

⑧「紺碧の空」記念碑　Monument of“Konpeki - no Sora”

応援歌「紺碧の空」（住治男作詞・古関裕而作曲）は、1931（昭和6）年から歌い始められた応援歌である。慶應の応援歌「若き血」に対抗してのことである。

歌碑は「紺碧の空」が45年目を迎えたことを記念して、1976（昭和51）年、大隈会館前庭に建立された。

現在でこそスポーツは身近なものになっているが、明治期以来、早稲田大学にはスポーツの伝統もあり、**「早稲田スポーツ」**と言われてきた。たとえば野球部は1905（明治38）年にアメリカ遠征を行い（日本初の海外遠征）、サッカーでは1936（昭和11）年のベルリンオリンピック日本代表の半分が早稲田の選手であった。ラグビーの早慶戦・早明戦は現在でもたいへんな人気である。

このような背景から、早稲田大学においては**スポーツの応援文化**もまた発展・成熟していた。

⑨「早稲田の栄光」歌碑　Monument of“Waseda no Eiko”

学生歌「早稲田の栄光」（岩崎巖作詞・西条八十補助作詞・芥川也寸志作曲）は、早稲田大学創立70周年記念の学生歌として、1952（昭和27）年に多くの応募作品の中から選ばれた。

慶應の学生歌「丘の上」に匹敵するような、カレッジソングを意識していたとも言われている。

「早稲田の栄光」は早大生に連綿と歌い継がれ、「校歌」・「紺碧の空」とともに最も愛される学生歌となった。**全ての早大生の琴線に触れる、名曲中の名曲である。**

早稲田大学創立125周年、第二の建学を記念して、2007（平成19）年に建立された。碑面の書は渡部大語。

(3) 石造　Stone Images

⑩十三重の層塔と⑪五重の層塔　Thirteen-storied and Five-storied Stone Pagodas

十三重や五重の石造層塔は、層数が陽の奇数であることから分かるように、木造層塔と共にもともとは仏教の供養塔であった。

仏教や茶道から深い影響を受けながら、次第に石造の美術・工芸品となり、造園技法における石工芸の伝統を形成した。石灯篭と共に端正で古びた味わいを特色にしている。

⑫灯篭各種　Stone Lanterns of Garden

雪見灯篭

雪見灯篭の由来には諸説あるが、傘の部分が雪が積もった形をしていることから、この名前で一般化しているようである。石灯篭の一種で、造園専用に作られ、水辺に置かれることが多い。

いろいろな灯篭（立灯篭、活込灯篭など）

庭園内各所には大小様々な灯篭があるが、一部を除き、ほとんどの灯篭の由来は定かではない。

(4) 海外からの寄贈　Memorial Danations from Overseas

⑬孔子像　Statue of Confucius

2008年6月に中華人民共和国政府から早稲田大学に寄贈されたもので、中国政府が日本の大学に孔子像を寄贈するのは初めてのことであった。この孔子像の設計・製作は、山東省政府がおこなっている。

もともと早稲田大学はアジア、特に中国との関係が深く、既に100年余り前から中国人留学生を多く受け入れ、現在では1,000人余りが学んでいる。

2007年から2008年にかけては、福田康夫首相（本学校友）が孔子の故郷山東省を訪問したり、胡錦濤国家主席が大隈講堂で特別講演を行った。

⑭中華民国獅子像　Stone Images of Taiwanese Lions

早稲田大学創立100周年を記念して、台湾校友会から寄贈されたものである。

台湾や中国における獅子は空想の霊獣であり、左右一対をなしている。もともとは力の象徴である百獣の王ライオンがオリエント、インドを経て中国にも伝わり、麒麟や青竜など中国古来の霊獣観と融合して唐獅子となり、日本の狛犬となっていった。

このことからも分かるように、獅子像は守護像であり、これからも早稲田大学を護るという台湾校友会の願いが込められている。

⑮エミレの鐘・韓鐘閣　Korean Temple Bell and Belfry

韓国・慶州国立博物館に国宝32号として指定・展示されている新羅の聖徳大王神鐘（通称:「エミレの鐘」）の1/2の複製品で、早稲田大学創立100周年記念として、1983年に韓国校友会から寄贈されたものである。

もともと大隈講堂内に展示されていたが、創立125周年を迎えるにあたり、同校友会から大隈庭園内に韓国伝統様式の鐘楼を寄贈され、2004年1月にはエミレの鐘を移設した。

⑯童子石と⑰文人石　Korean Stone Images of Boys and Literary Persons

童子石と文人石は、祖先の墓の前に立てられ、墓を見守る石像のことである。

⑯童子石

男の子を象った墓前に立てる石像で、朝鮮後期（19世紀初～中期）の作である。墓の守り主であり、死者の世話をするという。

⑰文人石

陵墓を護る守護像であり、袍を着て、頭には冠をかぶり、手には笏をもつ。

朝鮮初期（15世紀）の作で、このような文人石はソウル周辺の朝鮮王墓を含む全国の士大夫墓で確認されている。

早稲田大学創立125周年を記念して、2007年に千信一（Chun, Shin-il）高麗大学校校友会会長（世中古石像博物館の設立者）から、童子石、文人石、濟州童子像、法首の韓国守護神石像4対8体が寄贈された。

(5) 建築物・造作物　Houses and Landscape Gardening

⑱完之荘　House“Kanshi-sou”

「完之荘」(かんしそう)は、1952(昭和27)年校友の小倉房蔵氏から早稲田大学へ寄贈された建物で、その名称は氏の雅号「完之」に因んだものである。建物の来歴は、氏が六十数年前、飛騨の山村に残っていた600～700年前と推定される古屋を渋谷の邸内に移築し日常静閑の座所として愛用したもので、現在は広間に一室と土間とがついた構えになっている。

この建物の特徴としては、半ば天然の栗材を柱とし、それらの柱はすべて直接礎石上に立っており、また囲炉裏、火鉢、自在鈎、縁先の手水や石門等は旧のままであることがあげられる。小倉氏の好意によって寄贈されたこの建造物は、由緒ある大隈庭園に一段の風致を添えるばかりでなく、建築学上貴重な資料でもある。

⑲地蔵山　Artificial Hill“Jizo”

大隈庭園には「地蔵山」といわれるなだらかな山が存在する。これは造園技法の**「築山」**(つきやま)であり、土を掘りあげたところが池になる。庭園中央の沓脱石からこの地蔵山山上が庭園の中心軸になっている。

大隈庭園はもともと大名庭園であり、**「近江八景」**をモチーフにしていることから、(これを元に明治時代に京都で流行っていた**「文人風庭園」**に改造しているので)作庭にも庭全体の景観だけでなく、園路や4つに連なる池を渡る橋、石、灯篭、層塔など、日本庭園(和風庭園)のいわゆる**「池泉回遊式庭園」**の一種であるということができる。

⑳旧大隈邸門衛所　Gate Keeper's House of Okuma's Residence

早稲田大学で一番古い建物である。

現在の大隈会館、大隈庭園は、旧大隈邸の敷地内にあり、当時の門衛所がそのまま残されている。

(6) 記念樹　Memorial Tree

㉑大隈重信手植えの楠　Memorial Camphor Tree Planted by Shigenobu OKUMA

早稲田大学の創設者である大隈重信が熱海より実を持ち帰り伝播し、本邸を雉子橋（現在の九段南）から早稲田に移転したときに移植したものである。

なおこの楠の実から苗木を育てたものを**「第二世紀の楠」**として、第14代総長奥島孝康により11号館と14号館の間に植樹されている。

キャンパスがミュージアム　vol.2
《大隈庭園編》

2014 年 4 月 6 日　発行

編　　者　文化推進部管理職者会
監　　修　早稲田大学大学史資料センター
　　早稲田大学會津八一記念博物館
発　行　者　十重田裕一
企画・編集・発行　早稲田大学文化推進部